

## 漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	漂砂
相談タイトル	航路・泊地の漂砂対策について
相談者	鳥取県
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度以降、堆砂の著しい漁港の水域施設について、効率的・効果的に施設の機能を維持するため、機能保全計画の策定を進めているところであり、平成 29 年度には、本県市町管理漁港（第 1 種）における水域施設の機能保全計画の策定を予定している。</li> <li>・水域施設の機能保全計画では、定期的な水域施設の浚渫、防砂堤の整備、既存施設の撤去等、今後の施設の機能維持のために最も効率的・効果的な対策工法等を検討することになるが、計画策定にあたって留意すべき点等について教示してほしい。</li> </ul>
相談会の結果（H29. 7. 11）	<p>水工研より以下のアドバイスをを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水産庁が公表している「航路・泊地埋没対策ガイドライン」に沿って検討をすることが基本となるが、特に、埋没メカニズムを正しく把握するための数値シミュレーションが重要となる。</li> <li>・漂砂と流れの両方が検証できるものが有効で、シミュレーションの結果で砂がたまる場所とたまらない場所の両方が再現できることが重要である。シミュレーションには、冬季風浪だけでなく、複数の卓越波を考慮した方がよい。</li> <li>・シミュレーションの広さはできるだけ広くとり、影響がありそうなパラメータをいろいろ変えて結果を見てみるのが有効である。なお、水産工学研究所では、漂砂の精度のよいシミュレーションモデルを構築し、複数漁港で使われている。もし、埋没のメカニズムが難しい等あれば、このモデルを使って検討することも方法の一つと思われるので、相談してほしい。</li> </ul>
相談会後の検討状況	<p>相談会でのアドバイスを踏まえ、漂砂シミュレーションにおいては、解析に影響を与えるパラメータを把握し、複数パターンで解析を行い、過去の深淺測量データを基に、シミュレーション結果の妥当性を検証した。</p>